

インドネシア大使役 2年生 西村

興味本位で引き受けた模擬国連は、予想を遥かに超える大変さでした。しかし、模擬国連を通して、今まで読んだことがない量の資料に目を通し、世界中に視野を向け、会うことのなかった人たちと関わることができ、とても貴重な経験ができたと思います。一次審査では、毎日ペアと大量の資料を読み込み、課題の提出に励みました。先生からたくさん訂正をしていただいたり、ダメ出しを食らう度に、質問者が最も聞きたいことや、自分の回答に無駄が多いこと、質問から逸れているということがだんだんとわかるようになりました。この資料を読み込むことを通して、膨大な情報の取捨選択をする力を身につけることができたと思います。

そして、一次審査を通り全国大会へと出場することになりました。「宇宙」という身近なようで普段考えることのないテーマに、初めは不安で戸惑いました。しかし調べていくうちに、衛星がこんなにも私たちの身近にあること、人々の命を繋ぐものになるということを知ることができました。また、スペースデブリの問題やキャパシティビルディングなど初めて聞く言葉ばかりでしたが、それらがどれも重要な課題だと知り、まだまだ世界中には知らないことが溢れているんだなと思いました。

迎えた本番では、他校との実力差に驚くばかりでした。話に着いていくことすら精一杯なのに、それをまとめて英語に文章化する人や、母国語のように英語を話す人。そして、みんながそれぞれの国の大使になりきり、国益や国際益を考えた政策を提案していたり、他国の意見に積極的に発言している姿にはとても刺激を受けました。会議で積極的に発言していた人は、しっかりと調べ、自信を持つことが出来ていたからこそその行動力だと思います。自信を持てるかどうかは自分の行動次第なのだなと思いました。今回の模擬国連を通して知ることのできた自分の足りないところを補い、これからは活かしていきたいです。

インドネシア大使役 2年生 竹村

私は模擬国連の活動を通して、様々な面で成長を感じられました。書類選考では問いに答えるために膨大な量の資料に目を通し、何度も試行錯誤を繰り返しながらペアで文章を書きました。ただ資料に書いてあることだけで読み取るのではなく、その背景にある内容も確認し、全体を知ることによって自分の書くべき文章の意味を理解しました。しかし、資料の膨大さと決められた文字数で文章を書く大変さが思っていたより辛く感じることもありました。それでも、できるところまで頑張ってみようと思い、1次選考を通過することができました。

本番に向けて再び資料に目を通したり、担当国であるインドネシアのことを調べたりしました。今回の議題は宇宙利用ということで、知らないことが多く、単語を調べながら資料を読み、理解を深めました。私は、インドネシア大使として自国が宇宙利用において求めている利益を最優先に考え、立場をまとめました。また、自国の主張を発言するスピーチもペアと考えたのですが、完成に近づくにつれて、より一層自分たちがインドネシア大使だという実感が湧いてきました。そして、2日間の会議が始まりました。私は、とても緊張し、場の雰囲気に合わせて精一杯でした。全国大会ということもあり、会議に慣れている高校や自分との英語の実力差に圧倒されました。グルーピングでは、先進国・新興国・途上国の3つに分かれた後、最終的にはコンセンサスを目指す、ということで私たちは新興国と途上国にそれぞれ分かれました。

インドネシアの宇宙利用の位置づけは難しかったため、グループごとに考えをまとめる際にどちらにつくか決めるという方針にしました。私は新興国グループに入ったのですが、1人だと不安なことが多く、たくさん発言することができず、焦りもありました。そのため、周りが話していることを紙に書きまとめてペアと共有し、インドネシアとして賛成できるものなのか、などの連絡を取り合い、だんだん会議にもなれることができました。また、用意したスピーチは無事に終えることができ、とても安心しました。私自身、会議を終えてできたことは本当に少ないな、と感じましたが、それよりも本番を迎えるまでの過程でたくさんの苦労があり、得るものも非常に多かったな、と思っています。身近ではない内容ばかりで心が折れそうになったり、提出の締切に追われるなどの経験をし、それも全て貴重な時間だったな、と感じました。これからも模擬国連出場という経験を活かして物事を考えて、もっと世界を知ってみたいと思うきっかけにもなりました。

